



姉川と“妹川”とも呼ばれる高時川が合流する難波橋付近。

姉川

あねがわ

伝説と歴史の舞台を歩く

長浜市
DATA

取材日 2013年6月11日

天候 小雨

歩行距離 約2.5km

歩行時間 約1時間



姉妹の竜が洪水から村を救った物語

奥伊吹に端を発する姉川は全長約36キロに及び、湖北の平野部を蛇行しながら琵琶湖に注ぐ。この姉川に対して、妹川と呼ばれる川がある。姉川の支流にあたる草野川、もしくは高時川を指す（その流域によって身近な川を親しみを込めてこう呼ぶ）。これは、当地の姉川と妹川の民話による。

その昔、伊吹山の麓に美しい姉妹が暮らしていた。2人は早くに両親を亡くし、村人たちによって大切に育てられた。ある日、大雨続きで伊吹山中腹の池が決壊しそうな時、村を洪水から救うために、姉妹が池の竜神様にお祈りをしたが雨足はいつこうに衰えず、最後は決死でその身を池に投げ打った。その時、稲

高時川の錦織橋付近に「田川カルバート」と呼ばれる川の立体交差がある。田川は高時川の支流だったが、度重なる冠水の被害を避けるため、幕末期に高時川の川底に導水路が通された（現在のカルバートは昭和41年改修）。田川流域の治水のシンボルである。



現在の田川カルバート（西側）

妻とともに2匹の竜が池から飛び出し、それぞれ水を従えて麓へ下った。村や田畑を避けながら、やがて琵琶湖の近くで寄り添い、湖の中へ姿を消したという。その道筋は2つの川となり、村人たちはそれぞれ姉川、妹川と呼ぶようになった。

姉川は、もともと川床が周

辺の平野部より高い天井川で、大雨になると度々氾濫を繰り返した。この民話はそういう暴れ川に対する治水への思いから生まれたものではないかという。

ちなみに、姉妹の竜が落ち合った場所は「落合」という地名で、この付近で姉川と高時川が合流している。

“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょうか。



モデルコース

落合東バス停 10分、難波橋 10分、錦織橋・田川カルバート 10分、落合東バス停

※JR長浜駅から「落合東」までバス（浅井支所前行き）で約20分

※移動時間はあくまでも目安です。